

#### 第41回区民車座集会意見交換内容（高津区）

- 1 開催日時 平成30年12月8日（土） 午後2時00分から午後4時00分まで
- 2 場 所 パークシティ溝の口 E棟集会室
- 3 参加者等 参加者14名、傍聴者13名 合計27名

#### <開会>

司会：それでは定刻となりましたので、ただ今から第41回区民車座集会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めます、高津区役所副区長の齋藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今回は、「マンションコミュニティを考える！～10年後の豊かな暮らしに向けて自分ができること～」と題しまして、これからマンションコミュニティのあり方や、豊かに暮らし続けるために私たち一人ひとりができることを、参加者の皆様と一緒に考えてまいりたいと思います。

今回、テーマ設定に合わせまして、会場をこちらのパークシティ溝の口様をお願いいたしましたところ、住民の皆様の交流スペースである集会室を快くお貸しいただきました。川田理事長を初め、管理組合の御協力に対しまして、改めて御礼申し上げます。

では、初めに本日、意見交換していただく皆様を御紹介いたします。

お手元の次第にありますとおり、パークシティ溝の口、自治会長、山本美賢様。減災ガールズ、山本詩野様。メイフェアパークス溝の口、自治会長、石塚俊美様。管理組合理事長、久光俊宏様。ライオンズマンション久末、管理組合理事長、浅地究様。ライオンズマンション武蔵新城緑園の街式番館、管理組合元理事長、志水雅子様。株式会社エヌアセット、ワクワク広報室、松田志暢様。NPO法人かわさきマンション管理組合ネットワーク、会長、宮島茂様。副会長の相川洋明様。Neighbors Next U26 Project、猪股有佐様。島田真希様。向山直登様。株式会社NENGO、的場敏行様。株式会社レーベンコミュニティ、伊藤健樹郎様。以上の皆様においていただいております。本日はよろしくお願いいたします。

次に、行政からの出席者を御紹介させていただきます。

福田紀彦川崎市長でございます。

市長：どうぞよろしくお願いいたします。

司会：高梨憲爾高津区長でございます。

区長：高梨でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

司会：それでは、まず福田市長から、一言御挨拶をお願いいたします。

#### <市長挨拶>

市長：皆さん、こんにちは。車座集会に御参加いただきまして、誠にありがとうございます。今日は大分距離が近いですね。嬉しいです。このぐらいの近さのほうが、熱量が伝わってくる形ですね、良い会になればいいなと思っています。

今日はマンションコミュニティの将来像について考えるということですがけれども、高津区では今、区民の約3割の方が集合住宅、マンション等に住まわれているということで、川崎市内全体で見ても大体そのぐらいかなと思います。大体、高津区は平均ぐらいだと聞いていますけれども、川崎市全体で17万戸のマンションがあるということですから、凄じい数だと思います。

マンションのこれからのコミュニティの姿というのを高津区では去年から取り上げているということで、大規模なアンケート調査もやったと聞いています。こういった全市的な課題を高津区では先んじて取り組んでいるということで、大変有意義な取組だなどと思っていて、また今日はマンションの皆さんも御参加していただいて、それぞれ先進的な取組をしていただいていると聞いています。是非有意義な会になるように、皆さんの御協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

司会：それでは、本日の流れについて、まず御説明を申し上げます。

初めに、高梨区長から、マンションコミュニティに関する現状と課題を、15分程度のお時間をいただきまして、御説明させていただきます。そこで、課題認識を共有したいと考えております。

その後、マンションコミュニティについて、幾つかのテーマで市長との意見交換を行っていただきますので、そこからの進行は市長にお願ひしたいと思ひます。

なお、大変恐縮でございますが、複数名御参加いただいている団体におかれましては、時間の関係上、お一人の方から御発言をいただき、他の方につきましては補足等があった際に、御発言を短い時間でお願いできればと思ひております。

最後に全体のまとめを行ひまして、概ね午後4時頃の終了を予定しております。よろしくお願ひいたします。

それでは、現状と課題につきまして、区長からお話しさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

#### <現状と課題について>

区長：改めましてこんにちは。区長の高梨でございます。私のほうから初めに話題提供という形で、昨年、高津区のほうではマンションコミュニティのアンケート調査を行ひましたので、それを交えながら現況について、少し御紹介させていただければと思ひております。

初めに、マンションにおける居住者の状況、環境の変化ということについて、お話ししたいと思ひますが、いろいろたくさんあるんですけれども、そのうち、主だったものを、四点、御紹介させていただきます。

まず一点は永住志向の高まりということで、従来はライフスタイル、あるいはライフステージに応じまして住み替えをすることが多かったと思ひます。例えばお子さんが小さいうちは狭いところで、だんだん大きくなってきたら広い家のほうに引っ越したいなというふうな、そういったことが多く行われていたんですが、最近では経済事情もござひますが、永住型マンションというのができてきてまして、高齢になっても非常に住みやすい、そうした環境、設備が整っているマンションが増えたということで、永住志向をお持ちの方が増えているということになります。永住志向が高まると、空き部屋ができませんので、次の方が入れないということにもなりますので、必然的にお住まいの方の高齢化ですとか、あるいは残念ながら伴侶を亡くした方については単身世帯が増えていくというような状況が今進んでいるというところであります。

次が、セキュリティ、プライバシーに対する意識の高まりということです。防犯関連については非常に今、意識が高く、マンションもセキュリティの高さというのがマンションのアピール度にもなっている物件がありますけれども、そういった意味では、例えばオートロックですとか、あるいは防犯カメラ、また管理人の方が常駐しているというマンションも増えてまいりました。また、入居されている方自体のプライバシー意識も高くなりまして、郵便受けのところに名前を出さないですとか、あるいは入居者名簿自体をお作りにならないというようなマンションも増えている。そうなりますと、何号室に誰が住んでいるか、そういったことも入居者の中では分からないというような状況も、今増えていると伺っています。

三点目が家族形態の変化になります。いわゆる人との付き合いのチャンネルというんでしょうか、付き合いのいろいろな機会というのは、やっぱり家族の人数に大きく影響していきます。例えばお父さんとのお付き合い、お母さんとの人間関係、また子供になりますと子供の同士のお付き合い、また子供を通じて親同士

のお付き合いというのが増えてくるということで、家族が多ければ多いほど人との付き合い、あるいは接するようなチャンネル、機会というのが非常に増えてくるわけなのですが、最近は家族形態が大分変化してきて、お子さんが少ない、少子化ですとか、あるいはお一人、単身世帯になりますと、もうチャンネル自体はその方しかありませんので、必然的に人との付き合い、接する機会、チャンスというのが減ってきているというような状況でございます。

四点目が、職住分離・共働き世帯の増加ということになりますが、例えばお店なんか、昔はそこに住んで、そこでお店を営業しているという職住接近、まさに一緒の状況だったんですけども、最近はマンションのほうはサラリーマン化というのでしょうか、マンションから仕事、職場というのは別なところに通われる。そうなりますと、昼間は当然、お住まいのほうにはいらっしやいませんし、また専業主婦の方が少なくなると、共働き世帯がふえますと、奥様も別なところに働きに行くと。そうしますと、昼間の時間帯は地域ですとかマンション、お住まいのところにはいないということで、必然的にそういった意味ではお付き合いをする機会というのが減ってきてしまうという状況でございます。

これは平成29年に内閣府が出しました社会意識に関する世論調査の状況なんですけれども、望ましい地域の付き合い度、どういった形のお付き合いがいいのかなという意識の調査結果なのですが、御覧のとおり、「住民全ての間で困ったときに助け合う」ですとか、あるいは「気の合う住民の間で困ったときに助け合う」という方が26%、最終的には(オ)の「困ったときに助け合うことまではしなくとも、住民の間で挨拶を交す」というところまで含めると90%以上の方が何らかのお付き合いは必要だなという意識は持っているということが分かるかなと思います。

次が、先程は意識だったのですが、では実際はどの程度まで住民の方がお付き合いをしているか。このデータはマンションだけではないのですが、よく付き合っている、あるいはある程度付き合っている方が約3分の2ぐらいということです。ただ、主観的なところがございまして、ある程度付き合っているのが、例えば挨拶程度なのか、いろんなイベントに参加しているか、ちょっとその辺の明確な数字は出ておりませんが、ただ、ここで分かるのは、先程の意識と実際にやっているお付き合いの程度のギャップが、思ったほど、付き合いたいのだけでも実際はお付き合いができていないという、そういったギャップがあるということが、この数字で分かるかなというふうに思います。

では、マンションにおけるコミュニティ形成に対する意識なのですが、従前、「マンションは鍵ひとつ、近所付き合いもいらない」、昔、マンションのディベロッパーさんのキャッチコピーにあったような気もするんですが、昔は非常に密接した近所付き合いもあったんですけども、そこから逃げたいというか、そういったところを少し重荷に感じている方にとっては非常にマンションは利便性が高いところがあったと。それで非常にマンションのほうの販売が伸びてきたというような環境もございまして、その一方で、マンションは、そういった、いわゆる近所付き合い、コミュニティに無関心層が多いというようなイメージが持たれているかなと思います。

ただ一点、東日本大震災、2011年3月にありましたが、あそこの東北地方だけではなくて、首都圏もかなりの揺れがありまして、マンションで被害が出たところもありますけれども、それを一つの契機として、これじゃだめだ、何かあったときにはやっぱり隣の人と助け合うことも必要だなということで、少しコミュニティのそういった意識も見直されている状況が今なのかなというふうに思います。

そうしたことを踏まえまして、高津区のほうでは昨年、29年7月から8月にかけて、マンションの管理組合の方にアンケート調査を行いました。500のアンケートを配りまして、126カ所、27%ぐらいの方から回答をいただいた。その内容をちょっと御紹介したいと思います。

日頃、居住者同士でどのくらいお付き合いをしているのでしょうかということでお尋ねしたのですが、非常に入居者同士の交流が濃いというのが約5%ぐらいなのですが、その一方で、挨拶をする程度です、あるいは立ち話をするぐらいですということが、約8割ぐらいを占めているという状況です。これを多いとする

のか、少ないと見るのかはございますけれども、一般的には、でも8割ぐらいの方は顔が合ったら、こんにちは、おはようございますというような挨拶をされているという状況が伺えるかなと思います。

では、マンション自体で実際に住民同士のコミュニティ形成について何か活動しているのでしょうかという質問に対しては、一番多かったのが回覧板ですとか掲示板、そういったところにいろいろな情報を貼っている、あるいは情報を共有しているということが約90%近くになります。行政のほうからいろいろとお知らせの配布物をお願いすることも多いのですけれども、そうしたものを通じてマンションの方のコミュニティづくりに一つ、お役に立てていただいているところもあるかなというふうに思います。

もう一点、多いところが43%ぐらいになりますが、先程申し上げましたとおり、防災の面の関心がやはり最近では高くなっているということで、これは自主防災ですとか、あるいはマンションごとにいろんな備蓄をしたり、避難訓練をしたり、そうしたことも含まれていると思いますけれども、2点、40%以上が防災で何らかの活動をしているというのは、私、区役所の防災を預かる立場としては非常に心強く思っているんですけれども、非常に高い数字かなというふうに。

三番目が、いろんなイベント、花壇ですとか、環境整備についての活動ということになっています。

じゃあ、実際にマンションのほうでコミュニティ活動について、何か困っていることはありませんかということなのですが、一番多かったのは、特にないですよというのが43%ぐらいなのですけれども、その一方で、やはり一番多かったのが災害の対応、やっぱり防災意識が非常に高いところがあるのですけれども、そのほかに多いところが、やっぱり入居者で何か困っている方に対して助けてあげる、そういった意味では支援を必要とする人たちへの対応というものが2割ぐらいを占めているところがある、今後のマンションにおいても、ちょっと課題になってくるかなかなと思っております。

では、課題解決のために何か障害になっていること、困っていること。こういったことがあるのでコミュニティづくりが進んでないのだなというところで御質問したのですが、一番多かったのが52.8%になりますけれども、入居者の無関心というのでしょうか、なかなか関心を、マンションの管理組合の運営ですとか、あるいはコミュニティ活動に対して関心を持っていただけない。これはいろいろな要因があると思います。例えばお忙しいですとか、なかなか時間がないので、やりたくてもできないというような側面はあると思いますが、管理組合の方にとっては、入居者の方に関心をもっと持ってほしいなということでもあります。

また、二番目に多いのが、やっぱり意見調整。いろんな方が、いろんな立場の方が、いろんなお仕事の方がお住まいですので、そういった意見調整をするのが非常に大変だということが二番目に多くなっているということでもあります。

次が、では、そういったコミュニティづくりを進めていくためには何か、自分たちだけではなかなか難しいので、例えば行政ですとか、あるいは周りの人たちからの支援、お手伝い、そういったものが欲しい。そういった意味では、どんなものが欲しいですかというもののなのですけれども、一番多かったのはノウハウ的なところになります。コミュニティをつくっていくための手法ですとか事例、他のマンションではどのような形でコミュニティづくり、あるいは意見調整、合意形成を図っているのかな、そういった他のマンションの先行事例、成功事例などをどうしても知りたいという御意見が45%、半数近くの方で、多いということになっています。あとは、そういった関連で、フォーラムを開催したりですとか、専門的な、やはりノウハウ関連というのですかね、運営に関するノウハウに対しての要望が強いというふうに考えております。

高津区のマンションの状況なのですが、平成27年度にやりました国勢調査から推計した数字なのですが、高津区は共同住宅で3階建て以上の持ち家の方の比率でマンションの住宅と戸数を推定しているのですが、世帯数では先ほど25%ぐらい、世帯人員では約3割ということになります。一番左側の水色の部分です。真ん中のちょっと多いところは賃貸も含めたところになりますので、そうしますと賃貸も含めるとかなり共同住宅が高津区は多いというのが分かるのですけれども、分譲のマンション、持ち家も含めて、今は一番右が戸建になります、戸建の数字を今は世帯数も世帯人員も上回っているという状況になってい

ると思いますので、やはりマンションの状況というのは高津区でも非常に重い、重要な課題であるというふうに思います。

分譲マンションの築年数、500戸の築年数別の状況です。一番多いのが真ん中辺の10年から19年、20年弱ということと、その下が20年から29年になりますが、高津区のちょうど人口が増加した時代にやはり分譲マンションが多く販売されたということもあります。一番下が40年以上ということになりますけれども、高津区では10年から30年ぐらいのマンションが6割以上を占めているという状況になります。

最後に、こちらが規模別状況になります。500戸のマンションが何世帯ぐらいあるかという状況をまとめたのですが、一番多いのがやはり50戸未満で6割弱、そして下から2番目が100戸未満ということになります。実際に100戸未満のマンション、戸数で、件数でいいますと9割以上が高津区の場合は100戸未満のマンションということで、当然100戸未満のマンションは人材面、あるいは資金面も非常になかなか厳しいところがあると思います。今後マンションの管理運営ですとか、あるいはコミュニティをつくるには、どうしてもやっぱり中小マンションを対象としたところで、皆さんからのいろいろなお知恵をいただきたいというふうに思っております。

以上、簡単に駆け足で御説明させていただいたのですが、これからやはりマンションの運営なり、豊かに暮らしていくためには、それぞれのマンションに沿ったマンションコミュニティデザインというのが必要ではないかなというふうに思っております。今日の車座集会で、それぞれの立場から10年後、未来のマンションにおいて本当に豊かに楽しく暮らせるまち、あるいはコミュニティとはどんなものなのかということで、いろいろ御提案をいただくと嬉しく思っております。ちょっと駆け足でございましたが、御紹介させていただきました。ありがとうございました。

司会：区長のほうから、マンションコミュニティの現状についての説明をさせていただいたところでございます。

#### <意見交換>

司会：それでは意見交換させていただきます。ここからは市長が進行役となって進めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

市長：それでは改めまして、よろしく願いいたします。

区長からアンケート結果についての報告がありましたけれども、改めて、なかなか、イメージどおりといえどイメージどおりかもしれないけれども、近所付き合い、入居者同士での付き合いが余りないという話がありました。全国の先ほどのアンケート調査というか、付き合いがあるか、ないかというのは全国の話でしたから、そう考えると極度に共同住宅、賃貸もそうですけど、分譲のマンションが多い川崎で考えると、もっともとお付き合いがないというのが実態の数字だろうなというふうに思いました。そんな中で、今日はいろんな形でプレイヤーの人たちに来ていただいておりますので、改めてマンションコミュニティに対する現状、課題、こういったものについてどういうふうに今取り組んでおられるのかということ、それぞれのお立場から少し、大体3分間ぐらいずつ、お話しいただくとありがたいのですけれども。

まず山本さんのほうから、お話しいただいてもいいですか。

山本（美）さん：

パークシティ溝の口の山本です。自治会を今やっているのですけども。

うちのマンションは1,103世帯ありまして、築37年になります。先ほどの中で、1.4%の中に含まれるということでちょっとびっくりしたのですけれども。ちょうど37年前にできたものなので、そのとき

ちょうど買った方が30半ばぐらいじゃないかなと思うと、恐らく今住んでいらっしゃる方は70歳を超えている方がいる。ちょうど来たとき、僕は実は管理組合というものの存在さえ知らずに引っ越して来たら、その年に不在者投票で理事になってしまったんですね。そんな経験があります。その年に、ちょうど全戸アンケートをとったときに、やはり60歳以上の方が60%以上あり、なかなかこれはしんどいなと思って。あとは、理事会自体は1年交代だったんですけども、それではなかなか課題も解決しないだろうということで、複数年やるように、その年からやってきました。

そういうこともあり、どんどん高齢化は進んでいるのですが、2年前からちょっと入れかえが始まっていて、新しい若い世代が36世帯、去年は引っ越してきました。ここで何が起きているかという二極化ですね、高齢化と若い方の入居。若く、入ってきた方は、当時の僕と同じように全然、管理組合の存在も知らない。マンションの資産価値向上活動を知らない方が多いという二極化になっています。

そういったところでどういう対策をやっているかということは、まず、うちのマンションの高齢者といっても女性は割と活発なんですよね。陶芸クラブとか、隣・愛クラブというケアをしたり、そのような活動がすごく盛んなんですけど、男性にやっぱりなかなか出てきていただけないという課題が大きいです。

そんな中でも、民生委員というのは、なるべく75歳以上の単身、夫婦が対象なんですけど、最近ちょっと地域包括さんからの報告で、ちょっと衝撃的なことがあって、60歳以上の一人暮らしでちょっとひきこもりぎみな、そういう方が非常に増えている、このパークの中でも、というところがあって、それは何とかしなきゃいけないなと思っています。

対策としては、先程の、外から来た方に対しては、昨年からウェルカムパーティーというのをここで、この会場で開くようにしています。独断と偏見で自治会長が選んだお勧めグルメ、買い物、病院、あと僕は小学校のPTAの会長もやっていたのでPTA事情とか、あとは高津区というのは実はすごく農家さんだったりとか、そういうマルシェもあるんだよというようなものを言ったりとかして、中にいる方と交流を持てるような形にしています。あとサークル紹介とかですね。

あと、一番人気の、実はイベントが、パーク健康塾というのがありまして、年に2回ぐらいやるんですけども、健康セミナーですね。こちらは帝京ですとか、総合病院が二つあるのですが、その先生に来ていただいて、例えば、これは去年ですけども、脳卒中の話とか、目の白内障の話とか、あと、足の話とか、そういったのを第1部でやって、第2部は落語をやるんですね。そうすると、100人ぐらいですかね、ここにもう入り切らんばかりの人が来て、大体、マンションのいろんな説明会という、大体は見た顔がほとんどなのですけども、このときばかりは見たことがない人がほとんどということがあって、これはずっと続けていきたいなと思っています。

あとは、特徴としては、ここは、久本町は恐らく5,000世帯あります。その中でメイフェア（メイフェアパークス）さんとタワー（ザ・タワーアンドパークス田園都市溝の口）さんと連携を良くしております。一緒に今日皆さんに配ったところでは、高津区の協働型提案事業に採択していただきまして、広報情報を3者プラスセルフ（SELF）さんと町会さんと連携して編集部をつくって、月に1回会議をして、情報を共有しています。裏は、さっき災害というのに非常に興味があったと思うのですが、そういったハザードマップをつけて、これを今9,000部つくって、全部の町会さん、住民と、あと小学校、中学校、高校でも全戸配布していただいています。

山本（詩）さん： 私たちはピンクのエプロンで溝の口減災ガールズといって、ローリングストック、常備品ですね、それを使って、日常の食事がいざとなったときに役立つという、そういうことをワークショップでやっております。

石巻と益城町の方と御縁がありまして、益城町で炊き出しをやっていた方が、食べなれた味が体を癒したというふうにおっしゃっていたので、よく防災訓練のときに炊き出しをするんですけども、食べて帰って

もらうのは意味がないので、ちゃんと自分事になるように、ワークショップとして、常備品を目の前に置いておいて、水漬けパスタのやり方や、ポリ袋御飯のやり方を伝えて、おかずをつくってもらう、自分事にするという、そういうワークショップをやっております。もともとは久本小のママ仲間だったんですけども、今はいろんな地域の方やお年を召した方でも私たちの活動に興味のある方は一緒に活動していただいています。

区の防災訓練にはお呼びがかかるようになりまして、いろんなところへ行くんですけども、久本小であったときに、多分、町内会の町会長さんが最後にコメントなさったんですが、防災訓練も、もう昔のスタイルじゃなくて、新しく時代に沿ったものを作って、楽しく学んでいくということを、減災ガールズの人たちが教えてくれましたと言ってくださったので、それがすごくよかったなと思っています。

あと、今は県外の千葉のほうの住宅メーカーから、新しい分譲住宅をつくって、コミュニティをつくりたいのだけれども、防災がキーワードになるので、ちょっと来て、一緒にワークショップをやって、その住民の方々が自分たちで、御当地防災ボーイズ・ガールズができるように教えてほしいということで、そうやって月に1回とか、千葉のほうにも出かけていくようにしています。

以上です。

市長：ありがとうございます。

それでは石塚さん、先によろしいですか。

石塚さん：メイフェアパークス溝の口の自治会の石塚と言いますけども、私どもの通称、登録名称はメイフェアクラブです。実は会という名称は入っていません。多分、川崎市の全町内会でも、うちだけだと思います、何とか会という名称が入ってないのは、それはなぜかといいますと、私どもは2001年にできまして、管理組合とメイフェアクラブ、両方ありまして、547世帯ですが、全戸、自治会、クラブに入っています。これはどういう理由かと申しますと、2001年にできたとき、当初の目的が親睦を目的とした内容になっておりまして、会則にもそのように記載しております。今日皆さんにお渡ししましたメイフェアクラブ通信というのがございますけども、そのB面の左下のほうに必ず記載しておりまして、会則を記載しております。

目的として、会員相互の親睦云々という形で、皆さんに3カ月に一回、このような通信をつくって全戸配布します。これは活動の紹介、それから、これから何をやるかという内容を全員の方に知っていただくためのものです。これをもとにして、年間活動計画によって、いろいろな活動を行っておりまして、そこにもありますように餅つき大会とかサマーフェスティバル、自主防災訓練等々、いろいろなことを行っております。中身を見ていただければ内容が分かると思います。

それから、コミュニティを大事にしようということで、住んでいる方のつながりですね、それを目標にしております。私どもでは、当然ながら赤ちゃんからシニア、お年寄りまで、いろいろおりまして、人に合った活動をしておりまして、そこにもいろいろ書いてありますけども、例えば赤ちゃんの場合ですと子育てサロンとか、それから小・中学生を対象とした内容としましては七夕の飾りとかハロウィンとか、それからシニアを対象とした場合には観賞会とかカフェとか、いろいろやっております。

餅つき大会、サマーフェスティバル、自主防災訓練は全員参加を目的としたものということで、全員参加はなかなか難しいですけども、3、4割の方は参加してくれています。こういう場所、機会を提供することによって、少しでも顔見知りが増えて、平常と違ったことがあったら何か助け合う、そういうことができるのではないかなと思っておりまして、こういうことに注力しております。

先ほど入居者の方という話がありましたけど、入居者の方に関しましては、知り合いを増やす手段として、いろんな各行事とか、文化会というのを我々も管理組合とやっております。

それから、いろいろとコミュニケーションを図る手段としては、犬の散歩友達とか、犬のママ友、それか

らマンションの中に幼稚園、保育園の送迎バスが発着しますので、近所の方、そういうのを含めて、他の町内の方も来ています。そういうことを通じて触れ合いをやっていきたいということも考えておきまして、これから10年後の話、我々も、ついすみかでいらっしゃる方が多いものですから、年々、年を重ねまして、このまま10年たてば10歳、平均年齢が増加するという、そういう形になると思いますので、今後の行事活動の内容としましては、それに合ったものに変更しなければならないかなど、おいおい考えていきたいと思っております。

以上です。

市長：どうもありがとうございます。

大分皆さん、活動内容が濃いので、時間が長くなっておりますので、よろしく願いいたします。

浅地さん：ライオンズマンション久末の浅地と申します。

私どものマンションは道路からの3階部分の階段を上りまして、3階がちょうどエントランス入り口になっております。それで、かねて、私の母親が特養ホームに入所しておりましたときに、2カ月に一回ほど、母親を車から降ろして、背負いながら、その階段を3階部分まで上りおり、大変厳しい体験をしたことがございます。

それからもう一つ、きつい階段を高齢者が松葉杖をついて、苦しい顔つきで何度も上り降りする姿をかいま見たとき、これはもう何とかしなきゃいけないということで、何とか建物から1階へ、1階から道路へ出られる別のルートをつくりたいなと思っていました。

たまたま第2回目の大規模修繕工事のときに、皆さんから委員長として推薦されまして、それで、そのときにマンションの大規模修繕工事はもちろんのこと、念願であったエレベーターをもう一基、階段の外側につくりまして、それで、なおかつ2メートルほど高くなっていた土塀を取り壊しまして、そこを1階の入り口にしまして、要するに道路に出られるということで、やりました。

そのとき、きょうは行政の首長さんがいらっしゃいますので、川崎市の段差解消工事の助成金の恩恵にあずかりまして、それも活用させていただきました。ありがとうございました。

そんなことがありまして、大規模修繕も無事終わりました、その翌年、役員の変更がありました。そのときに引き続いて皆さんから推薦されて、今日まで足かけ7年間、理事長を経験しております。私が最初に気づいたことは、やはりコミュニケーションということですね。コミュニケーションにまず力を入れるのはなぜかと申しますと、やはりコミュニティが根づいていれば、住人同士が話し合えて、解決の糸口が見出せるのではないかと。それから二つ目は連帯感とか共感も生まれ、また友人も増えることにより、快適なマンションライフを送ることができるのではないかと。そして三つ目は、これまでの管理組合に無関心な住民の意識を変えられるのではないかと。こんなことに気付きました。

具体的な行動としては、そのために何をやったかと申しますと、まず1番目、情報開示の取組でございます。これは理事会の議事録とか重要事項の掲示、そして特に重要なものは、全家庭にポスティングですね。それから2番目が、意見箱兼提案箱を設置しました。と申しますのは、やはり住民というのは表だってなかなか表現できない方もいらっしゃいますし、自分の意見とか、それから要望事項、問題の提起、これらを意見箱に入れていただいて、それに対してスピード対応と解決を図るということに取り組みました。それから三つ目は、年2回、春と秋の美化運動の終了後、エントランスに集まりまして、飲食しながら重要事項の説明会と、それから意見交換会。これは大体6割から7割が出席しております。それから四つ目ですけれども、年2回、やはり植栽運動がございまして、そのときに意見交換会。また、年に一回、エントランスで夏に納涼祭を実施しています、いろいろ食事をしながら意見交換会をする。あとは国内旅行ですね、これは希望者ですけれども、月3,000円の積立をしまして、年間3万6,000円で旅行をしております。



こんなことで活動の狙いは四つありました。その一つは、管理組合の運営に無関心な住民への意識改革を図ることですね。それから二つ目は、相互理解を深めることにより、これまでの管理組合運営を管理会社任せではなくして、自分たち理事会主導型に切りかえた。それから四つ目は、先程から出ておりますが、震災ですね。防災とか震災などの緊急時に実質的な対応と組合運営をすること、これを心がけました。

以上であります。

市長：はい。ありがとうございました。

次は、志水さん、お願いします。

志水さん：初めまして。志水と申します。武蔵新城にもう26年住んでいます。今住んでいるマンションは築16年となりまして、45戸の、ちょっと小さ目のマンションかなと。よくあるサイズなんですけれども、規模としては小さ目、中の小ぐらいのタイプだと思います。

このぐらいのサイズのマンションというのは、どうしても財政的に厳しくなりがちと言われていています。このマンションも10数年間、全ての運営を管理会社に任せきりにして丸投げ状態で、管理組合や理事会というのは形式だけみたいな感じで、理事も直接それを、仕事ぶりをチェックしたりとか、お金の使い道やお金の金額をチェックしたりということを全くしないまま10数年たちまして、12期で大規模修繕工事をやったときに、それまで積み立てたお金を全部使い果たしました。

大規模修繕工事のときに、私も役員の一員として、副理事長として、名ばかりの副理事長でしたけれども、関わってしまっていて、わずか半年ぐらいで修繕工事の計画を立ててしまっていて、管理会社が提案してきたものを丸飲みしまして、やはり管理会社のほうがプロだからという役員の方の皆さんの声に押されてしまっていて、見積もりを提示されたときに、その見積もりを見たときに、修繕積立金と全く同じぐらいの金額だったものですから驚きましたし、すごく不安に思いました。ですけれども、やはり無関心層が多い中で、理事会でもそれが通ってしまい、総会でも通ってしまい、意見を言おうにも、何も分かってもらえないというか、自分の中で不安ばかりがいっぱい、大規模修繕工事に突入しました。その時点で私は役員じゃなかったので、何も言えないまま、ただただ見守るしかなかったというのが一番のきっかけだったんですけど、入居当初からさかのぼれば、廊下は汚い、掲示板はめちゃくちゃ、エントランスも自転車がいっぱい並んでいる。駐輪場は一部の居住者が3台も4台も専有してしまって、他の人が使えない。使えない人は廊下に自転車を置くというような形で、廊下が私物や、すだれだとかがかかかっていて、築年数が浅かったにも関わらず、どんどん汚くなっていくのを目の当たりにして、すごく心配していたんです。理事会や管理会社にさんざん意見を言ったんですけど、誰も何も動かずに、ちょっとお知らせをみんなに配るというだけで、その後に改善したかどうかのチェックも何もなさらずというような状態が続きまして、不安に思っていたんです。

役員は輪番、強制輪番になってしまっていて、私は立候補したかったんですけど、はねられて、10期まで待たざるを得なくて、10期目になって副理事長として始めました。中に入ってみて一番思ったことは、管理会社が、理事会が依頼したことを全然やってくれない。それも理事会が2カ月に一回しかない。この間の宿題はやってきたのかというと、やっていませんとか忘れましてとかで、2カ月、2カ月と先送りされて、1年なんて簡単に過ぎてしまいます。そんな感じで、やる気のない管理会社を目の当たりにして、その人は5年間、うちのマンションを見ていたんですけど、私はその中のうち2年しか役員の期間がなくて、心配ながらも退任しなければならなかった。

その後、大規模修繕工事だとかを見守りながら、そのときの理事長さんにさんざん意見を言いながら、長期修繕計画もちゃんとやってくださいねとお願いしながら2年間、不安ながらも何かできることはないかと思ひ、マンション管理士の勉強をしまして、すぐさま管理業務主任者の資格をとりました。

何が何でも立候補しようと思って、2年後に立候補しまして、立候補はできなかったのですが、輪番で決まっ

ていた候補の方に相談に行きまして、やらせてくれないかをお願い申し上げて、分かりましたということで変わっていただきまして、14期になりましたけれども、2年間、成り行きで理事長になりまして、管理会社をもう変えようということで、最初の引き継ぎのときに新旧役員がいて、管理会社のフロント担当者と課長さんもいらしたんですけど、その中でぶちあげまして、みんなに白い目で見られまして、そんなところからスタートしたのですけれども。役員の皆さんをとにかく説得するところからスタートしまして、最初の説明会をすぐ5月にやりまして、そんな感じでやりました。

人前でしゃべるのはすごく下手くそなので、一番苦労したのは、広報紙を使って、とにかくいろんなことを書いて、現実を皆さんに分かってもらうように、それをとにかく頑張りました。結果としては、かなり改革が進みまして、一般会計の管理費会計の年間費用35%を削減しまして、管理会社を初め、業者の8割ぐらいを変更しました。それから理事会の開催頻度を上げまして、役員改選も総入れかえ制から半数改選へ移行させました。共用部分もさんざん注意したりとかしたんですね。単にきれいということを目指すだけでなく、建物や設備を大切に使うと、乱雑に使っていますと故障したりとかして、修繕費がかさんでしまいますので、みんな大切にすることが結果として自分たちの負担増を減らすんだよということをさんざん啓蒙し、広報活動しました。それを今後続けていただくよう、今の理事長さんをお願いして、私は退任しました。

以上です。

市長：ありがとうございます。

それでは。

松田さん：株式会社エヌアセットの松田と申します。よろしくお願ひします。私は打って変わって、賃貸の管理業務と賃貸の仲介業務をやっているような会社です。なので、今日お話を聞いたときに17万戸のマンションがある中で、51.6%、9万弱が賃貸ないし共同住宅ということを知って、すごく驚きというか、責任が多いなと思いました。

賃貸なんですけれども、非常にコミュニティは難しいと思っています。エヌアセットのデータを見ても、1年間で解約が700件ぐらいあるんですね。その中で入居年数、どのぐらい住んだのかというデータをとってございまして、それが平均3年ぐらい、3年ぐらいというデータがあります。なので、すごくそこが難しいというところは日々、気にしながら、業務しております。

私自身、ワクワク広報室という部署になるのですけれども、不動産の実務はもちろんなのですけれども、やっぱり住みたい人、住み続けたい人という方を増やしていかないと、高津区においても私たちもそうですし、大家さんもずっとこのままではいられないよねということで、いろんな活動をしています。例えば、いろんな地域住民の方と一緒に、まちの魅力というのを確めながら、新しくつくるものはつくって、今ある魅力に関してはみんなで実感できるようなことをしております。

特に不動産屋さんというのは、まちの第一印象をお伝えできる立ち位置にいると思うのですね。お部屋探しのときに、お部屋のことだけでなく、このまちの魅力だとか、文化だとか、サークル活動だとか、そんなところまでお伝えできるといいなと思ってございまして、そういうことを情報媒体だったり、実際にイベントだったりをして、お伝えしているような形になります。

あわせて、地域価値向上という意味では、プラス、溝の口は特にベッドタウンと言われているので、築90年の建物をちょっと改修しまして、シェアオフィスという形で、働けるまちに、昼の人口を私たちも増やしたいなと思ってございまして、暮らすまちで働くということをやっています。やっぱりこれは人気で、今70名くらいの方が使ってもらっているのですけれども、空き待ちの状態が続いているような状況です。やはり優秀な方も多くいらっしゃる、外国人もすごくいらっしゃる、今後のまちの取り組みの担い手にも

なってくれるのではなかろうかと思っています。

また、もう一つは保育園も企業主導型保育という形で運営させていただいています。

課題感なのですけれども、やはり最初のとおり、賃貸入居者にどうやってコミュニティを、自分の生活にいい影響があると実感してもらえるか。そこに尽きると思っていて、そこがなかなか難しいというところで、今日はいろんな方の御意見を聞きながらやりたいなと思っています。

よろしくお願いします。

市長：ありがとうございます。

お願いします。

宮島さん：私は、かわ管ネットという、かわさきマンション管理組合ネットワークの一員でございます。したがって、一マンションとして出るのではなくて、ネットワークとしての発言をしなきゃいけないんです。そのベースで話をしたいと思います。

それで、我々のネットワークの一つの業務としては相談業務、マンション管理運営の相談業務。その中で昨年度から、今年の9月までの約9カ月の相談件数は約440件あります。いかに皆さんが苦勞しているかというのが分かるのですが。ただし、コミュニティについてはごくごく少ないのですよ。統計をとってみると4件で、余りコミュニティについて関心がないのか、問題点を把握してないのか、それがちょっと理解、分かんない。コミュニティの内容を見ますと、どちらかという自治会との関係とか、役割分担の関連。あるいは中で、けんかしちゃって二つに割れちゃっているという問題とかが出て、そういうコミュニティと相反するような問題が持ち込まれているというのがあるわけですね。

それで、ネットワークのほうとしては、大体、年に一遍、コミュニティについてセミナーをいたします。セミナーについては、コミュニティというのはい体何なんだというところがあるわけですね。よく言われるのは弱いコミュニティと強いコミュニティ。弱いというのは、ちょっと表現が悪いのですが、一般的に挨拶をするとか、お話しできることでやっていける。それはごくごく一般的なコミュニティで、しかし、これはマンションの基本であろうというふうに思うわけですね。しかし、本質的には、マンションのコミュニティというのはいもうちょっとあるだろうというので、我々のほうとしては、一つは扶助、相互扶助コミュニティ、お互いに助け合うというところで、もう一つは共同管理コミュニティ、みんなで管理するところまで行けば、コミュニティとしての役割を果たせるのではないかと。そのバックにあるものは、じゃあ何なのか。

結局、広報というのか、皆さんに広報を十分しまして、皆さんがよく、このマンションの管理組合が何をやっているのか、どこの方向に向いているか、そういうことを理解してもらわないと、共同管理コミュニティなんてできません。そういうところで、我々のほうとしては、そういう観点で年一回、セミナーを開きまして、そういうことをやって、広く伝えていきたいというふうに考えております。

以上です。

市長：はい。ありがとうございます。

それでは猪股さん、よろしいですか。

猪股さん：Neighbors Next U26で事務局をしております猪股と申します。略してU26というふうに言わせていただきますが、私たちU26は、簡単に言いますと18歳から26歳までの若者で、自分たちの欲しい暮らしとか与えたい住まい方というのを一年を通して考える学校みたいなことをやっております。大体20人ぐらいですかね、若者で集まってやっております。

先程も区長からのお話であったかなと思うのですが、住宅に入ってきた事例だったり、ナレッジみたいな

ところが非常に重要ということで、一年のうち最初の3カ月から6カ月ぐらいはインプットの期間と置いておきまして、建築の先生だったり、あとは管理会社さんからマンションの管理の仕組みはどういうことなんだろうね、みたいなことを学びながら、実際に自分たちが欲しい暮らしというのを考えていっています。

東京でいいますと、今47%ぐらいの方がマンションに住んでいらっしゃるんですけど、マンションだけでなく地域でも、社会的孤立だったり、高齢化だったり、子育てだったり、いろんな課題があると思います。そこに対してU26の若者がコミュニティという方法を使って解決していく、そんなことを考えています。

実際に2020年には、自分たちの考えたマンションというのを叶えたいというところを大きなビジョンとして持っています。今日多分呼んでいただいたのは、10年後の豊かな暮らしに向けてということなので、まさに若い世代からの意見というところを、皆様には、きちっと発信できるといういいなと思っております。

この溝の口というところも、非常に私たちは縁がありまして、ちょっと今、一部の方には配らせていただきましたが、2016年にパークシティ溝の口の皆様とコミュニティ・カフェをつくると、そんなプロジェクトを一年間を通してやってまいりました。分譲マンションだけではなくて、今年のテーマはまさにエヌアセットの松田さんが非常に関係しているかなと思うのですが、単身世帯の賃貸マンションだったり分譲マンションのコミュニティを考えるということテーマにやらせていただいています。

きょうは、私だけでなく、後ろに2名、島田と向山というものがおりますが、まさにここから先は車座座談会の方で若い人の意見を聞くのが、一番皆様にとってはインプットになるかなと思いますので、3人で今日は進めさせていただきたいなと思っております。

よろしく申し上げます。

市長：よろしく申し上げます。

的場さん：100年後の街づくりをしております、株式会社NENGOの的場でございます。

私どもマンションの仕事もいろいろやっておるんですけども、まちを元気にするという活動もいろいろやらせていただいております。この地域ですと、例えば久地ゴルフさん。ゴルフ練習場があると思うのですが、そちらのゴルフ練習場さんの横にアンダーアーマーさんというスポーツブランドのバッティングセンターを誘致したりですとか、同じ敷地内に高さの高い空間が使われずに残っていたので、そこにはボルダリングの施設を誘致して、ボルダリングとバッティングとゴルフができるスポーツビレッジになって、土日の朝になると家族でやってきて、それぞれのスポーツを楽しんで、それぞれスポーツする姿を見て、心も体も元気になって帰っていくというような、そんな施設をつくってまちを元気にしたりですとか、いろいろ活動しております。

よろしく申し上げます。

伊藤さん：レーベンコミュニティの伊藤と申します。

私たちはマンションの管理会社でございます、こちら、パークシティ溝の口の管理を昨年10月からやらせていただくようになっております。

今、大体首都圏を中心に日本全国で900棟、大体5万戸位のマンションの管理をさせていただいております。

先程から、マンションの管理会社が余り仕事をしないというお話もありましたが、やっぱりマンションの管理に関して、一番情報を持っているのは管理人さんであったりマンション管理会社であるというふうに私たちは思っていますので、その情報を皆さんに適切に提供して、コミュニティ形成のためにその情報を適材適所で御紹介する中でコミュニティ形成の向上に役立てていければというふうに考えて、コミュニティ形成活動に積極的に取り組んでおります。

川崎市内でも新築の分譲をグループのほうでやらせていただいております、私どもグループの分譲のマンションでは、入居後一番最初に管理組合を立ち上げる総会をやるのですけれども、その総会のときに合わせて住民の方の交流を深めるようなイベントを企画して、皆で軽く飲み食いしながら、例えばフロアごとに席を分けるなどして、まずは早く近所の方と仲良くなって会話ができる環境をつくっていただくようなきっかけづくり等をさせていただいております。

今日は、どうぞよろしくお願いたします。

市長：皆さん、それぞれ御発言ありがとうございました。大分熱のこもった御発言をいただいたので押し返しておりますけれども、それぞれ本当にとってもいいキーワードが出てきたのではないかなと思います。

四つのマンションのところから、コミュニティを形成していくためには、どれも共通してキーワードとしてあったのは、情報を広く共有すると。住民の皆さんと共有して、公開して共有して、そして広報をしっかりとやると。それがまず基本にないとだめだということですね。

今、伊藤さんから管理会社からの意見としても、やはりいろんな住民の皆さんから一義的にこういうこと困っているんだとかというふうな話というのは管理人さんとかに入ってくるので、そこをコミュニティ形成のために、管理組合の皆さんにしっかりとその情報を伝えていくことが大事なのだというふうな話がありました。

コミュニティ形成のベースになるところはしっかりと情報を皆で共有する仕組みをまず整えましょうねというところから始めたのだというお話が多かったのかなと思いました。

プレゼンしていただいた皆さんは、ものすごくこの方がいたからできた部分というのも多分多いのかなと思いますし、ただ、なかなかまだこういうふうなマンションというのは非常に少ない、少数派のほうだと思います。故に、今後こういったことを横展開、区内のところはどうやって、やっていくかということ、今日の参加していただいている皆さんからちょっと御意見をどんどんいただければありがたいなと思っています。

そこで、ちょっとコミュニティ形成に向けての何かキーワードというのを、少しブレインストーミング的にというか、いただけるとありがたいのですが。

実は、前回の区民車座集会をやったのは、宮前区でやったときは、お隣の区ですね、新しい人たちが住民で入ってきたときにどうやって受けとめるかという話。そのキーワードは、ウェルカム感が欲しいというのが一つのキーワードだったのです。なるほど。新しい若い子育て世代が入ってきても、何となくどことも接点がないといったときに、まちとしてのウェルカム感というものが欲しいよねということで、ウェルカム感を出すためには皆どうしたらいいでしょうかという議論を前回の区民車座集会でやらせてもらったのですけれども、今日のこのすてきなマンションコミュニティを形成するに当たってのキーワードってどんなものが大事ですかね。

ちょっと指ささせていただいていいですか。若い者の意見をという話であったので、猪股さんの御一緒のメンバーで向山さんと、島田さん。コミュニティカフェを山本さんのところでやっていただいたということも踏まえて、何かいろんなキーワードというのが出てきましたでしょうか。ちょっとコメントいただければと思います。

向山さん：一昨年パークシティ溝の口のほうでコミュニティカフェの御提案をさせていただいて、一緒に防災イベントをやったりとかという中で、ちょっとコーヒーを出したりとかというようなことで、コミュニティカフェの第一歩となるようなきっかけみたいなのをやらせていただいたのですけれども、若者目線でコミュニティのきっかけとなるというところできくと、やっぱり先ほどスライドのほうにもあったと思うのですけれども、やっぱり若い世代の人で、よく共働きだったりとか忙しい方が多いと、なかなかそういうところ

にコミュニティに関わる接点とか、時間というのがないというところがあると思っていて、そういう中でウェルカム感ということで、やっぱりどうしてもイベントだとすぐには行けなかったりというようなことがあるので、例えば毎日コミュニティカフェをやっていますとか、毎週末はやっていますということであれば、今週だったらちょっと行けそうだな、じゃあちょっとふらっと行ってみようかなというところから、マンション何をしているのか、地域がどういうところなのかというところがやっぱり分かってくる。そうすると、やっぱり会話も、一言目も、これってどういうイベントなのかみたいな、挨拶につながってくるみたいなどころがあると思うので、やっぱり受け入れ口のウェルカム感を広くするのですけれども、イベントというよりは、場で常にあいている場所があるということが重要なのかなというふうに思います。

市長：なるほど、すてきな御意見。

島田さん、何か補足していただけるようなことはありますか。

島田さん：そうですね、私はコミュニティカフェには残念ながら関わらせていただけていないのですが、この若者ということで感じていることとしては、マンションコミュニティという、私もマンションの中に住んでいますけれども、なかなか関わり辛さだったり、若い人というよりは大人がずっとつくり上げているものみたいなイメージがあって、自分事に置きかえてということに関わろうという意識は低いなというふうに思っていて、じゃあどうやったら関われるかなというふうに考えたときに、もっと若い人に求められていることは何だろうと思うと、レア感とか、体験ができるとか、マンションの中で、例えばですけどバイトとしてお金がもらえる形で仕事ができるとか、そういうレア感があったらもっともっと楽しく関わってやりたいこともふ増えてくるのかなというふうに思ったりしています。

市長：おもしろいですね。マンションの中でアルバイトって、今までにはない発想をありがとうございます。

例えば、若者だけということだけじゃなくて、多世代が混じり合うという場あるいはイベントというふうなのは、どういうものがいいですかね。ぱっと、イメージが付くもので結構ですけど、何かありますか。猪股さんどうでしょうか。

猪股さん：多世代ですよ。先ほど、向山が言っておりましたけれども、やっぱり関わり合いの余白と、余白をつくるということと、あとは必ずあるその場、週末必ず何時間は開いているからいつ来てもいいよみたいな、ふらっと立ち寄れる場みたいな、それが多分今回でいうとコミュニティカフェという形だったと思うんですけど、山本さんたちと取り組ませていただいたのは、そういった場があると、多世代が交流するようになるなという印象はあります。これまで5年間やってきて。

市長：ありがとうございます。

先程の大ヒット企画の健康塾は浅地さんのところでしたかね。山本さんのほうですか、コミュニティカフェをやられたり、健康塾やられたりというので、ヒットメーカーとして、多世代が混じるとか、あるいはちょっとこれまで来てなかったよねというような人たちを呼び込むような参加のきっかけをつくるものは、どんなことが今まで良かったですか。

山本（美）さん：健康塾は、実は僕ら自治会のアイデアではなくて、よく、昔自治会やっていた方で某NHKのイベント企画をやっていた方が引退されて、その知見を生かしてイベントの企画書を一生懸命自治会に送ってくださって、要はそういう方が、今まで経験がある方を生かして、プレイヤー側に来ていただくということが良かったのではないのかと、すごく喜んでやって張り切ってやっていました。

市長：その方は住民の方ですか。

山本（美）さん：住民です、もちろんです。ずっとここに、ここができてから住まわれている方で、NHKのエディケーショナルというところで、例えば花博とかありますよね、あれのイベントディレクターを長年やられていた方なので、もうそういうこととなると目がきらんと光ってですね、一生懸命やっていたいて。

市長：そういう方は他のマンションにも出張していただけるのですかね。

山本（美）さん：そうですね、マンションの中で、さっきアルバイトが出てきましたけど、いいと思います。喜んでやってくれると思います。

市長：さっきの減災ガールの山本さんのほうも、千葉まで行ってやっておられるということですよ。

山本（詩）さん：そうですね、この活動をしていて思ったのですけれども、やっぱり防災というキーワードは本当に年齢関係なく興味も持たれるので、私たちも最初ママ友でやっていましたけれども、今は本当に70代の方も参加していただいたり、あと、ワークショップをやっていると、男性のおじさまとかがいい匂いにつられて何やっているんだとかって言って、ちょっと僕もやってみようかとかというふうには、本当に男女関係なく来てくださる、防災はいいキーワードです。あと、楽しく学ぶということもいいキーワードです。

市長：なるほどですね。確かに最近、防災のことに対して非常に関心も高まっていますし、これは大きなキーワードになるかもしれませんね。自分たちの切実感のある話で、年齢に関係なくということですけど、ちょっと久光さんも今日来ていただいておりますので、久光さん、あるいは石塚さんから今の防災の話が出ましたけれども、何か今取り組まれていることだとか、こういうことをやると人が集まってきたよなんていう話、防災の観点でちょっとコメントいただければありがたいです。

久光さん：メイフェアの中で、従来から防災活動として、こういう年に1回ぐらいとかいろんな集まりに参加しているのですけれども、今回いわゆる防災のための訓練から、実際に起きたらどうするのだと、もう一歩進めてその辺を考えていこうということで今プロジェクトが進んでいます。それには、メイフェアの中では管理組合と自治会ということで、二つの両輪があるんですね。自治会はどっちかという、ハード的に建物とか安全とかですね。メイフェアクラブのほうはどっちかといえば、コミュニケーションです。この両者がその目的に向かって一緒に進めていこうと。特に発生時にどうするのだというようなことを考えて、もう少し大きな枠で今検討を始めています。

ただ、コミュニケーションという観点ではないですね。今お話聞いていただいたように、これを通して皆が集まればいいなというふうには思いますけれども。

市長：そういう意味では、集まってきたときに減災ガールのようなソフトが組み合わさると、まさにコミュニケーションが生まれてくるかもしれませんね。

山本（詩）さん：そう思います。私たちの活動は、自分たちがどこかに行き行ってやるというよりも、最初の入り口をお伝えするけれども、御当地の減災ガールズ、ボーイズができていいと思っていて、今はメイフェアさんとかタワーの方たちとも一緒にやっているのですけれども、それぞれの地域とかマンションによって、

やっぱり状況が違うと思うので、本当にご当地のところができてくるといいと思うのです。そうするとそこが、キーマンがいるかもしれませんが、コミュニケーションとして広がって行って知見を共有したりというふうになると思います。

市長：ありがとうございます。

志水さん、50戸以下のマンションでいらっしゃいますよね。ここがなかなか、いろんなところで難しいところなのですが、圧倒的多数のところは50戸以下、あるいは100戸未満というところなので、ここは財政的なことだけではなくて、人的なことも含めて非常に厳しいかなというふうに思うんですけども、防災のことで、こういう100戸以下、あるいは50戸以下というところでやっていく難しさ、あるいはこういうふうな形だったら少し取り組めるかなというようなものはございますか。

志水さん：当方のマンションでは、最初は管理組合の取組が余りなかったのですが、10期に私が役員をちょうどやっていたときに、その前の前の年に震災がありまして、家で7階建ての7階に住んでいるのですが、すごく揺れて怖い思いをしましたので、ちゃんと訓練やってくださいということで理事会を集めまして、私も実際に理事会に携わったので、今年からとにかくやろうよということで、理事会主催で避難訓練をしました。

50軒以下は確かに財政的には厳しいのですが、逆に人の顔をそれぞれ覚えられるという利点がありまして、まず顔なじみをつくっていきましょうということを中心に考えて、まずとにかく避難してもらって、集まるだけでもということで、それとあと消火器を使ってやって、あとは普段の生活で防災を心がけようとかということを一先懸命皆に説明してというような、手づくりのお手製の消防訓練をまずやりまして、大変好評だったんですね。そこから毎年、一つずつ何かを足して行って、まずマグネットボードというのをつくって、各お宅にマグネットを、連絡先、避難していますとか在宅していますとかというのを玄関扉に張ってということをして、理事が見て回って避難して来た人の点呼と、それから張ってあるかどうかという点呼をやってというのを2年目にやりました。3年目はパーテーションボードという、ベランダで仕切りのところをけ破る、あれを板だけ買って子供にやらせて、それでぱりっと割れておとかという感じで皆で見て。それから、マンホールにくっつける簡易トイレを買って、それを組み立てて説明して、皆で組み立てたり片づけたりとかとやったりとか、毎年何かしらやって、去年私がやったのは、高津消防署の隊員の方に来てもらって、消防車を持ってきてもらって見せたりとか、あと通報訓練を隊員の方にやっていただきまして、具体的にこういうことを伝えてくださって、そういうのもしてきました。

市長：ありがとうございます。

確かに、今50戸以下とか小さい規模のところは大変だと申し上げましたけど、志水さんの逆転の発想で、逆に顔が見える関係が作りやすい。確かに本当にそうですね。

そういった意味では、今言っていたように工夫次第だし、早く顔が見える関係がつくれるというメリットがあるよということですね。ありがとうございます。

かわ管ネットさんで、今日は宮島さんも来ていただいておりますが、ずっと防災のことはキーワードで今来ていますが、かわ管ネットさんのほうに、いろんな、去年は490件でしょうか、今年ですか。コミュニティ形成のことに余り相談はないけど、先ほど相川さんからお話ありましたが、防災訓練だとかそういう系の相談もないですかね。

宮島さん：今言われているのは、基本的にはいわゆる自治会的な話がコミュニティは多いのですよ。基本的にマンション管理相談といいますと、いわゆる財産の関係とか管理組合の運営とか、そういうお話が圧倒的



に多いですね。先程、理事のなり手が無いとか、そういう意味でコミュニティもそこに絡んでくるのではないかと思うのです。私は、すみません、高津区のマンションじゃないのですが、宮前区なのですが、一応私のマンションでは、入って来た人を、管理会社がいませんので理事に次年度にすぐしちゃうのですよ。基本的に、各階段ごとにいるんですが、大体入ってきたらすぐに理事にしまして、管理組合の中身を知ってもらおうと。だから、あとそこを含めて、いわゆる自分たちの財産は自分たちでやるのだという自主管理をやっていますので、そういうことと、あとはさっきの防災じゃないですが、大体9月か何かに防災訓練をやっているのですけれども、その時に炊き出し等やったり、あと夏休みに地域を巻き込んで夏祭りみたいなことをやって、小学校からも校長先生が来ていただいたり、そういうことで住民に無料の券を配って必ず参加してもらおうと。無料だと来てくれるのです。そんな取組を私のところはやっていますが、ちょっとネットワークとしては、そこまではちょっと言えないのですけれども、そういう相談があったら、いろいろそういうことも含めてお伝えできればなと思っています。

市長：ありがとうございます。

伊藤さん、管理会社としての、恐らく、ものすごい5万戸のマンションを管理されているということですから、全国の事例を含めて、防災をきっかけにしてマンションのコミュニティ形成をやっているみたいな話というのは大分進んでいるようなのでしょうか。どういう観点でコミュニティ形成につながっているケースは多いと理解されていますか。

伊藤さん：防災はやはり、マンションにとっては重要なキーワードですけれども、もともと、昔マンションでは何かあったらマンションも同様に避難所に行きましょうというような考えが主流であったものが、今はだんだん考え方が変わってきて、鉄筋のマンションは壊れないよと。だからマンションにしようというところで発想が変わってきている。実際、3.11のときにも私たちの管理しているマンションでも大きい揺れで、御主人は都内で働きに行っている。自宅には帰って来られない。残されたお母さんとお子さんたちが不安だから、例えばマンションの1階の集会室に皆で寄り集まって助け合いながら一晩過ごしたよというようなマンションもあつたりするのですけれども、マンションのコミュニティはやっぱり防災と非常に密接につながってきて、防災のためにといえば皆さん非常に興味を持っていただけるというのが実情だと思います。

ですから、先ほど皆さんおっしゃるように防災訓練の出席率というものは他のイベントに比べて、例えば子供がいない方でも防災訓練には必ず出てこられるとか、単身の方でも防災訓練には出るよという方も多くいるので、きっかけとしては非常に有効だというふうに私たちは思っています。

市長：ありがとうございます。そういう意味では、先ほどの減災ガールズの山本さんの話じゃないですけども、防災訓練にプラスアルファ要素というふうなのを掛け合わせていくと意外とおもしろい、今まで出てこなかった人が出てくるというのもあり得るかなという話ですよ。

NENGOの的場さんとエヌアセットの松田さん、ものすごい、お二人ともアイデアマンでいろんなところで、楽しいわくわくするようなことをやっているの、そういうソフト面的な組み合わせみたいなので、お二人どちらからでも結構ですけども、何かコメントあれば。

的場さん：私は、お子さんがいらっしゃる世代ですと、それほどコミュニティはないことはないと思っています、実は単身世代、シルバー世代も厳しいとは思いますが、単身世代が一番地域にとって問題があるのではないかなと思っています、一つアイデアがあるのは単身世代でその地域に引っ越しされた人たちは、まず不動産屋さんが責任を持って合コンすると。不動産屋は、その人がどのぐらいの年収なのか情報を持っているじゃないですか。だから、組み合わせがうまくいくと思うのですよ。そうすると、その地域に馴染みやすい

と思うのですよ。ですから、エヌアセットさんよろしくお願いします。

市長：それを受けての松田さん。

松田さん：確かに社内で合コンはいいよねと。長く住んでもらう一つのポイントだよねという議論は確かにありました。

防災の話に戻ると、防災プラスアルファ、やっぱり子供が楽しむということは結構、もちろん受けが良かったですし、単身層はすごく難しいと思っていたのですが、ビールは結構、梶ヶ谷の建物の屋上でビールのイベントをやったんですね。高津区に日本一になったクラフトビールがあるものですから、それを皆で楽しもうよということで、そこはやっぱり単身の方も連られて来ていらっしゃったし、御夫婦で楽しみに来てくださる方というのがありました。

というのもやっぱり、地域の飲食店の方が声掛けに協力してくれたりとか、いわゆるコミュニティの媒介になってくれる可能性はあるのかなと思います。

あとは、情報のやりとりというので、ふらっと武蔵新城とか、ふらっと溝の口というフェイスブック、結構あれですね、ふらっと溝の口は今3,400人くらいの方が登録されているのですが、50代60代の方が結構いらっしゃいます。そういった意味では、意外とオンラインを見てらっしゃる方多いなという印象はあります。

市長：年配の方もですね。なるほど。ありがとうございます。

先程の最初の浅地さんのお話の中でも、いろんな会議やった後の意見交換会。何をやった、美化活動やった後の意見交換会。これ、意外とやっぱり大事だということですかね。

浅地さん：やはり、人同士が仲良く知り合うためには、やっぱりそういう機会を利用しながら、しかも形式ぶらないで、缶ビール一杯ぐらい飲みながら、飲食しながら、それこそ車座じゃないですけども、皆さん集まって、その後にはバーベキューなんかも一緒にやります。そうすると皆さん終わっても帰りませんね。そういう中で、いろいろな問題点を話し合う。

それからちょっと防災の面について一言だけ。防災といいましても、ハード面とソフト面がございます。ハード面につきましては、私ども久末町会で毎年防災訓練をやっておりまして、そこへ行って、例えば消防車の消火活動とか、それから震度6ぐらいの震度が出る車に乗ってあれをやるのですよね、そういうところで経験したり。それで、じゃあ自分たちのマンションがどういうことをやっているかといいますと、消防署から来ていただいて、消火器を意外と使えない人が多いのですよ。ですから、消火器をエントランスに5、6体並べて、その取扱訓練。

それからもう一つは、AED。一台設置しましたが使い方も難しいですから、総会終了後、これで3年間やっておりますけれども、実施訓練をやっております。そんなことをソフト面ではやっております。

市長：ありがとうございます。

確かに、良い御発言いただいて。飲みも大事だけど、やることやっているの。

大分いい意見が出てきていると思うのですが、猪股さんこれまでの皆さんの御意見を聞いていかがですか。まだ総括早いですが、中間的な。

猪股さん：防災の話が出たので、一つこれも事例みたいな話でさせていただきますと、今の若い人って、多分皆さんが思っているより、そんなに防災に対して意識って高くなくて、正直。的場さんもおっしゃって

ましたけど、マンションに住んでいれば絶対大丈夫と思っているのですね。

何か、最近やっておもしろかったなと思っているのが、公園を防災という目的で貸していただいて、泊まっていいよという、普段キャンプとかしちゃいけないんですけど、そこに私たちがキャンプ用品と、すごく簡単な防災食だけ置いて若い人で泊まりたい人泊まっていいよというイベントをしたことがありまして、そうすると皆、防災という意味じゃなくて、まちの中の公園に泊まれるという非日常感をすごい楽しみに来るんですよ。なので、多分皆さんそういうことすると、その公園にずっと留まると思われると思うんですけど、若者たちは全然違って、まち中に飲みに行ってキャンプに帰ってくるとか、カラオケに行って帰ってくるとか、何かそういうことが行われていて、私たちからすると、実は裏の目的って、キャンプ用品を使ってもらおうとか、防災の食事を食べられるようになってもらうというのが実は裏の目的であって、何かそういうアクティビティとか、おもしろい要素とか、でもすごい言い訳じゃないですけど緩さみたいなものを残しておく、今の若い人というのは、結構おもしろがって、おもしろがるというような感じだと思うんですけど、おもしろがってのってくれるなというのは、すごく思っています。

市長：そうですね。今年9月1日の防災の日は、川崎市は9都県市で首都圏の四つの都県と五つの政令市の防災訓練が、川崎市が当番の年だったので、実は今回は前日からメニューが始まりまして、親子連れのキャンプを募集しましたら、募集人数をはるかに数倍超える人気があって、夜中から泊まって、次の日の防災訓練に出ると。そこでやっぱりいろんな、こういうものができるのだとかという、正しい知識を楽しみながらつけていただくというふうなことをやったのですよね。非常に好評でした。

ですから、実はさっきの区長が説明した、どういった支援というものを求めていますかといったときに、ノウハウというのはやっぱり圧倒的に多かったですよ。50%ぐらいの人たちがノウハウだとか、好事例というふうなのを欲していると。だから、こういうやり方であるのだと。

先ほどの公園の話もおもしろいし、若者がこういうきっかけで入ってくるのかという好事例があれば、じゃあ、うちのはこういうちょっと変化をつけてやってみようかなということが可能だと思うのですよね。だから、そういう好事例を発表するなり共有する場があって、例えば高津区というところで共有化できていけば、もっともっと広がりが出てくるのかなと。ちょっと困ったなと思っているところが、ああ防災の切り口にこういうソフトをくっつけていけば、自分たちもできるかもしれないというふうになってくると。

山本さんどうですか。

山本（美）さん：そうですね、例えば世帯数とか築年数とかそういったところである程度分類して、いろんな事例があって、やっぱり50戸以下とか、自分に近い事例を見て、そこをさらにカスタマイズしていくというようなアーカイブとかデータベースとか、あるとすごくよい気がします。AIもこれから……。

市長：本当に、こちらのように1,000を超える戸数のところと、50戸以下のところと一緒にやると、それはちょっと無理と最初のところからそう思っちゃいますよね。ただ、同じぐらいの規模感のところだったら、やれるかもという事例があると、こういうやり方できるのかなというのがありますよね。

もう一度、減災ガールの山本さんに戻ってきますけど、いろんなパターンは考えられますか。大規模マンションでも50人以下マンションでも。

山本（詩）さん：そうですね、考えられると思います。あと、マンションもそうなのですが、家庭によってはお年寄りが多いか子供が多いかによっても食の内容が変わってきて、味付けも変わったりするので、やっぱり自分事に、まずするかどうかですよ。そこから、自分事にして、あと自分のマンションのコミュニティによってまた変わってくるので、いかようにも変化していきと思っています。

市長：なるほど。ありがとうございます。

石塚さん、クラブとしていろいろ取り組まれて、これは本当にいろんなことをやっておられるなどと思って、びっくりしますけども、今のでさらに参考になるようなお話、ありましたでしょうか。あるいは、こういうのはもうちょっと自分たちのノウハウをほかのところに伝えてあげたいなというふうなものをございましたら。

石塚さん：どちらでも同じでしょうけれども、困っているのは参加する人が固定化しちゃうのですよね。物ごと全てに恒例の行事に終わっちゃうのですね。特にシニアを対象とした、うちもカフェをやっているのですけれども、やっぱり出てくる人は出てくるけれども、来ない人は出てこないとか、一番そういう方をどのように呼び出すかといいますか、それが一番悩みの種でしたけども。今のシニアのカフェに出てこない、要するに名簿もつくれない。今はいろいろとありまして勝手にはつくれない。参加された方の了解を得て名簿をつくって、要援護者のリストをつくるかですね、そういうことを進めているのですけれども、なかなかそれが進まない。それが一番困っている内容です。

皆さんのところでどのようにすれば出席してくれるかというような御経験のあるところがありましたら、御紹介いただければありがたいのですけれども。

市長：先程の健康塾の話なんかは、すばらしい組立をできる方がいらっしゃって、その住民の方はほかのところでやってもいいよと。生きがいを感じてやっていただける。

実は、地域の寺子屋事業を今川崎市内でやっていますけれども、どういう講師の方がいらっしゃるのかというのは、実は共有しています。ですから、どこの区でもどこの寺子屋でもこういう講師を呼べますというリストがあって、そうすると、きょうはこっちの切り口からいきたいというときに適切な講師を呼べるというふうなのがあるので、そういう石塚さんの今おっしゃったように、こういういい事例があれば、うちのところでも取り組みたいし、また石塚さんのこういうすばらしい事例みたいなのを他のところでもまねしたいというふうなのが、恐らくたくさんあるのではないかなと思います。

伊藤さんに再び伺いますけど、こういうふうな管理会社として、管理組合の皆さんに情報提供するものというのは、こういう形はやっておられますか。

伊藤さん：今まで、古い体質の管理会社というのが意外と多くて、マンション同士の情報共有を余りしてほしくない、ここはこういうクレームがあったりここではこういう具体のことがと、余りマンション同士の情報を共有してほしくないというようなやり方が、過去マンションの管理会社にあったので、管理組合様同士の情報共有というのが遅れた要因の一つじゃないかなというのが、私たちの感じるところです。

ただ、今はもうそういう時代じゃないですし、情報はどんどんオープンにして、むしろ自分たちのマンションの魅力を対外的に発信できるマンションじゃないと、これだけ不動産が飽和しているわけですから、生き残れないのではないかとということで、やっぱり、一番情報を持っている。皆さんいろいろイベント取り組まれていますけど、その話、私も他のマンションで聞いたことあるなと思うところが多々あるのですね。

やっぱり、一番ノウハウを持っているのは、実は管理会社で、それをうまく引き出していただければ何でも出てくるのだけどなというのがやはりありますので、ノウハウの提供力ですとか、いろんなアイデア、企画力ですとか、そういった観点でマンションの管理会社が選ばれる時代が来ているのではないかとこのふうには思います。

市長：ありがとうございます。

きょうもすごくいいメンバー、区のほうでお願いしたのだと思うのですが、管理会社で、こういった課題はその管理組合だけ、一個の管理組合だけというのは、これはすごいハードル高いです。だけど、例えば不動産屋さんだったり、管理会社だったり、管理組合だとかあるいは私たち行政だったりというのを、こういう課題を、こういう課題についてどういうふうに解決するという、それぞれの知識だとか、ノウハウというものを出し合うと、意外といけるのではないかというのが、このメンバーの中でも見えてきた気がします。

これをどうやって横にさらに広げていくかというのが、これから高津区が目指しているところですけども、松田さん、もう一度戻っていきますけど、さっき、分譲とそれから賃貸のお話ありました。さっきのデータでいくと、川崎市内の一戸建てというのは25%、26%ですか。3割弱ですよ。あとは賃貸と分譲。だから、ざっくりいくと3割3割というような感じですよ。ですから、分譲のところだけが課題なのではなくて、どうやって賃貸の方たちもコミュニティの一人として参加してもらっていくかと。

例えば、防災といった、震災になったときの、その方たちが地域には余り関係ないよというわけにはいかないわけで、そういう人たちをどうやって地域の中に日常的に意識を持ってもらうか。先ほど、共同で生きているのだよという、その意識改革の話、それぞれの皆さんから出ていましたけれども、賃貸の皆さんにも短期間だと思わずに、ずっと住み続けていただくというのは川崎市にとっても、とっても大事な話なので、地域を元気にするという話。魅力を発信してもうと。こういうことの連続したものはとても大事だなというふうに思うのですよね。もう1回松田さんとの場さんから、そのことについてコメントいただいてもいいですか。

松田さん：賃貸の現場でも、やっぱり防災意識とかコミュニティ意識というのは、すごくその人の生活の糧になると思う一方で、当事者意識というのを持ってもらうのはすごく難しいなというところがありました。分譲マンションもそうだったように、まずは情報開示、情報提供。こんなイベントがあるというところを届けるというのを、今まですごく難しく、今はメール、あとSMS、ショートメールですね。あと、入居者専用のページというのを今開発してまして、その人だけのページ。その人がログインすると最寄りの避難場所はどこだとか、そういうふうに分かるようになったらいいなというので開発を進めているところです。

一方で、僕が今日来て思ったのは、やっぱり分譲マンションの方との関わりも、賃貸のマンションに住みながら近隣の分譲マンションはこういう感じなのだというのが知れると、より賃貸ではないんだけど、このまちに住み続けたい。だから、山本さんとか石塚さんのところに、是非住みたいという方は、やっぱりいると思うのですよね。そういう出会いもやっぱり一緒になってつくっていききたいというのが、今日思ったところです。

市長：ありがとうございます。

的場さん：我々が新築の賃貸マンションをつくらせていただくときも、まず先に入居者さんを決めるのですよ。入居者さんと一緒にマンションをつくっていくのですね。ですから、もうそのときから地域、その建物にコミットしてくれるので、活躍してくれるのですね。大山街道沿いにも、1軒つくらせていただいたとき、ちょうど後ろにいらっしゃっているのですが、その方は本当に地域を愛してくれて、大人の寺子屋という活動をされて、勝手に人を大勢集めてまちを盛り上げていただいているのですよ。何か、そういう方を増やすことがマンションにとっても必要なのかなと思っています。

マンションで、先ほど人を集めるのが大変だというお話がありましたけれども、そういうプレイヤーを増やす活動をする必要があるのではないかなと思います。

市長：なかなかでも、特殊な例ですね。買う人が分かっている、その人とマンションをつくっちゃう。

的場さん：賃貸でお住まいになる人を先に決めて、その人と一緒にお部屋をつくっていく。

市長：おもしろいですね。ありがとうございます。

大分時間が経過してきて、もうそろそろなんですけども、これまでのところでちょっと言い足りないな、発言しておきたいなという方いらっしゃいましたら、是非この際積極的な発言を。

相川さん：さっき、いろいろ話が出ましたが、私はコミュニティというのは、一番私のマンションのところを見ると、お祭りをする。サマーカーニバルというのですが、夏に1回やるのですよ。ほとんど全員出ますよね。そのマンションは541戸あるのですが、いわゆる大規模マンションなのですが、これはお祭りですから、うちのマンションばかりではなくて、地域の人たちも入ってくる。大々的にしましたけど、年々増えてきます。まず、こんな格好が一番最初の出発かなという感じはしています。

市長：ありがとうございます。

すごく大事な視点ですよ。自分のマンションだけじゃなくて、周りの人たちも巻き込んでいくという感覚。全て自分たちだけのということじゃなくて、すごくオープンな考え方はとても大事だと思うのですよね。

こちらも、本当に自治会だとか、自治会をまたいでも結構連携をされていますよね。コメントいただいてもよろしいですか。

山本さん：一番いいことは、築（年数）がそれぞれ15年ずつぐらい違うのですよね。そうすると、15年後の自分たちの姿というのが分かって、今度入れ替えるといったときも分かるということなので、そういう近いところによい事例があると、住民と共有すると合意形成が早いというのがあります。なかなか、いろんな方々がいると、さらに御提案するよりも、事例を話してそこから進めていったほうが短縮できるのですよね。課題解決は1年でも1カ月でも早いほうがいいので、そういった連携によっても知見の共有と事例を共有していくというのは大事にしております。

市長：ありがとうございます。

そういう意味では、本当に様々な知見というのがあって、かわ管ネットさんのところにもいろんな御相談があるでしょうし、あるいは先ほど志水さんの御発言で、なるほどと、非常に参考になるなと思ったのは、役員を半分ずつ入れ替える、総入れ替えにしないというので、なるほどという、これ一つとっても、もちろん単年度じゃないほうがいいなというふうに思いますし、だけど、どうやってルールを少しずつ変えていくというのは、そういう事例があるのだというのは、他のところから見ると参考になるなということがあるのではないかと思うのですよね。ですから、こういった運営方法だとか、あるいはこういうソフトがありますよとかいうことを、結構集積してやると皆のためになるのではないかなということを、今日本当に思わせていただきました。

是非、これは高津区がマンションのことについて、一番最初に7区のうちで取り上げたんですけども、実は隣の宮前区、宮島さんのお住まいの、私もそうなんですけども、宮前区のほうが実はマンションの率は高いし、かつ老朽化をしているところは、より宮前区のほうが老朽化が激しいとかですね、そういう問題が出てきているわけですよ。ですから、これは本当に高津区の先進的な取組、これを横展開してもらって、それをさらに市内全域でこういったノウハウ展開ができていくと、ものすごく社会的課題の解決に大きくつながっていくのではないかなというふうに思っています。

もう大丈夫ですか、御発言大丈夫ですか。

本当に、是非この取組を広げていってもらいたいなど。

一つ、今日は防災が一つのキーワードになって、防災、ただの防災訓練というよりもプラスアルファ要素というふうなのをつけていくと、今まで来なかった人たちが来るようになるというのも一つありましたし、ちょっときらりと光るような人材というふうなのを、もう少し自分たちのマンションだけじゃなく、広いエリアで共有していくということも必要でしょうし、発想が自分たちでということじゃなくて、もう少しオープンな形で、人材をあるいは情報も共有していくともっと、もっと課題解決につながるのではないかなということ、改めて私自身も学ばせていただきました。

最後に、これから高津区でこういう取組をやっていきますよということも含めて、区長からのコメントをもらいたいと思います。

区長：皆さん、どうも貴重な御意見ありがとうございました。今、お話いろいろ伺いまして、やはり一つのキーワードは防災でありましたけど、もう一つはやっぱり楽しくですかね。出席された方が本当に楽しい、来て良かったな、また来たい、そういった雰囲気をつくるということも大事ですし、あと、アンダー26の方にはふらっと立ち寄れるというようなキーワードも出たのですが、そういった意味では、何か束縛するのではなくて、緩く気軽にというようなものも一つのキーワードかなというふうに思います。

そういったものを、これからもっともっと、今日来た方もいろんなアイデアですとか、ノウハウをいただいています、データベースというようなお話がありましたけど、区役所のほうではそれを集めて広く皆さんにまた情報展開したいと思います。

また、私も区役所からのお願いなのですが、是非来た方には皆さんのいろんな知識とか経験をほかのマンションの方たちにも是非お伝えいただいて、今日はせっかくの機会ですので、何かネットワークみたいな形で、何か相談があったときにはいいよいよ、さっきの話ではないのですが、そういった相談にアドバイスをあげるよとか、そういった相談だったらちょっと行ってみようとか、そういったようなものが区の中でできると、本当にありがたいと思っています。是非とも、そういう意味で御協力をいただければと思います。

よろしくお願いします。

(拍手)

市長：ありがとうございました。

短い時間でしたけれども、大変有意義な区民車座集会だったと思います。本当に御協力いただいたことに感謝して、今回の会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

(拍手)

司会：御参加いただいた皆様、どうもありがとうございました。今の意見交換の中でもお話ありましたけれども、高津区では1月19日土曜日になりますが、午後2時からマンションにおけるつながりづくり講演会交流会ということで、このテーマが実践的マンション防災対策というようなテーマを取り上げまして実施する予定にしております。12月17日より先着順での受付となりますので、是非こちらのほうにも御参加いただければというふうに思っております。

高津区ではこれからも様々な形でマンションコミュニティについて皆さんと一緒に考えてまいりたいと思っております。

それでは、以上をもちまして第41回区民車座集会を終了とさせていただきます。

本日は御参加いただきまして、どうもありがとうございました。